

令和2年度 湯河原町地域公共交通会議 (神奈川県湯河原町) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通等の現況

鉄道・・・JR東海道線(湯河原駅)
 民間路線バス・・・箱根登山バス、伊豆箱根バス、東海バス
 タクシー事業者・・・箱根登山ハイヤー、伊豆箱根交通、湯河原タクシー、真鶴タクシー、門川ハイヤー

交通網形成計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

持続可能な公共交通の形成・維持を目指す、3つの基本方針と方針を実現するための5つの目標

- 基本方針Ⅰ 公共交通不便地域の移動手段の確保と公共ネットワークの確保
 ⇒目標① 公共交通不便地域の改善・解消 目標② 乗継拠点(交通結節点)の機能強化
- 基本方針Ⅱ 福祉・観光等まちづくりと一体となった公共交通サービスの展開
 ⇒目標③ 乗降しやすい車両導入による利便性向上 目標④ 既存公共工津の利便性向上
- 基本方針Ⅲ 協働による持続可能な仕組みづくりの確立
 ⇒目標⑤ 町民(地域)の公共交通に対する意識の醸成

交通施策として実施した事業の全体像の概要

湯河原町コミュニティバスの見直し・・・移設した病院への「足の確保」や既存バス停の安全性を考慮して、令和2年4月に一部経路変更を実施
 高齢者・障がい者等も利用しやすい車両の導入・・・タクシー業者が保有する車両台数に対し18%をユニバーサルデザインタクシー(UDタクシー)に切り替え、令和2年度は3台のUDタクシーを導入予定

補助対象事業の概要

公共交通不便地域の改善・解消のため、新たな公共交通システムとして、令和元年10月1日からデマンド型乗合いタクシー(区域運行型)の本格運行を開始した。

【デマンド交通「ゆたぼん号」】

事業者名：湯河原タクシー
 運行区域：温泉場、オレンジライン、鍛冶屋、福浦
 運行日：月曜～金曜(祝日、年末年始は運休)
 運行時間帯：交通不便エリア発 9:00/10:00/14:00/16:00
 目的地エリア発 10:30/11:30/15:00/16:30
 運行本数：4便/日(鍛冶屋・福浦エリアは4便目を運休)
 運行車両：セダン型
 運賃：400円(乗合い、障害者手帳、運転経歴証明書等を所持している場合300円)

面積	40.97 km ²
人口 (R2.4.1時点)	24,413 人
15歳未満	1,906 人
65歳以上	9,869 人
高齢化率	40.4 %
世帯数	12,841 世帯

交通網形成計画の策定年月日

平成30年5月

協議会開催状況

- 協議会の開催状況 4回開催
- ・第1回(令和2年7月27日)
事業計画等について
- ・第2回(令和2年8月4日)
生活交通改善事業計画について
- ・第3回(令和2年12月9日)
実績報告等について
- ・第4回(令和3年1月〇日)
事業評価について

前回の事業評価結果の反映状況

- ・令和2年度が事業評価初回のため「該当なし」

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

- ・指標①:「ゆたぼん号」の乗車密度⇒目標値:1.3人/便以上

【当該指標・目標値を設定した理由】

- ・網形成計画において他自治体のデマンド交通等の運行継続条件を参考として設定
- ・実証運行時(平成30年10月～令和元年9月)の利用実績を踏まえて設定

【効果】

- ・高齢者等、マイカーを自由に利用できない住民の日常生活(通院、買い物等)における移動手段の確保ができる。
- ・地域住民(特に高齢者)の外出機会の増加につながり、住民の健康福祉の増進、地域の活性化に寄与することができる。



目標・効果の達成状況

【指標①】

実績:「ゆたぼん号」の乗車密度1.63人/便(令和元年10月～令和2年9月)

(参考 各系統の乗車密度)

温泉場 1.34人/便 オレンジライン 1.75人/便 鍛冶屋 1.01人/便 福浦 1.00人/便

【目標を達成できた要因(分析)】

- ・オレンジラインエリアの利用ニーズが大変高く(乗車密度1.75人/便)、指標を押し上げる要因となった。

アピールポイント

・住民と協議の上、利用率向上のため、本格運行に移行した令和元年10月に合わせてバス停の移設及び新設をそれぞれ2箇所実施した。

・運行に当たっての課題や利用者ニーズの把握を目的とし、運行事業者と随時意見交換を行うよう努めた。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月15日から6月24日まで47運行日の乗合い運行を原則中止した。

今後の改善点

・各エリアの地域性を考慮した上で、利用率の低い鍛冶屋エリア、福浦エリアで利用説明会等を開催し、利用に向けた意識の醸成など、ソフト面から利用を促すような取組みの推進を図る。

・デマンド型交通について、分かりやすいPRを広報紙、HP等から周知を行い、新規利用者の増加に努め、併せて乗車密度(乗合い率)を高めていく。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止による乗合い中止により、今後の乗車密度が低下する可能性もあることから、評価指標・目標値についても再検討する必要がある。

○参考資料として以下の資料を添付

- ・資料1 地域の公共交通体系図(鉄道、民間路線バス、コミバス 等)
- ・資料2 補助対象事業の運行系統図
- ・資料3 補助対象事業の実績データ(利用者数、収支 等)